

**VERAは見学自由なんです**

VERAは、研究施設なので、見学はハードルが高そうと思われるのですが、実は見学自由なんです。

施設内のゲートは、日中は開放してありますので、駐車場に車を止めて、歩いてゲートを通ってくれば、いつでも誰でもVERAの足元まで来て見学することが可能です。

写真撮影も自由なので、ぜひ間近で存分にVERAを堪能しちゃってください。

**VERAの内部へ潜入**

VERAのアンテナの内部には、年一回だけ開催される一般公開の時に入って見ることが出来ます。

今回は、中川さんのご協力の下、VERAのアンテナの解説はもちろん、特別にアンテナ内に潜入させていただいちゃいました。

まるで、遊園地のアトラクションへ続く道を進む子どものように、ドキドキワクワクしながら歩を進めました。



ココにも入りました

**VERA計画の予算減と中止報道**

ブラックホールの撮影に成功したと華やかな報道から一転、翌年には、VERA計画が一定の成果を果たしたとして、計画の中心である水沢観測所の2020年度の予算が半分に減額され、その計画が2020年の6月には中止されると報道がされました。

VERA計画が中止されたからといってVERAが直ちに撤去されるというわけではありませんが、さまざまな大学と連携して研究を進めるVERAは、予算が減れば、連携する大学への影響も避けられません。

世界的な偉業に貢献した矢先でのVERA計画中止の報道に、研究者や学生たちの間には衝撃が走りました。

それから研究者や大学の教員たちは、協力して、国立天文台の台長宛てに、VERA計画の継続などを求める要望書を提出します。

中川さんも、その要望書に名を連ねるとともに、他の大学の教員たちと国立天文台の台長のもとを訪れ、VERAの最近の研究成果を説明したうえで、計画の継続を訴えましたが、その10日余り後に

**VERA計画を守れみんなの行動が起こした逆転劇**



は、無情にも正式に予算が半減することが決定してしまったのです。

VERA計画中止の報道を受け、岩手県では、水沢観測所の支援のために、有志団体が立ち上がった。ウェブを活用した署名活動などが行われ、県内では、SNS上で、「入来電波望遠鏡ファン倶楽部VERA」が立ち上がるなど、全国的にもVERAを支援する声が高まりました。

さらに、中川さんを中心とした鹿児島大学では、VERAを活用した新たなアイデアとして、「星の距離を測るための新しい物差しを作る」とや「私たちが暮らす天の川銀河の中心までの距離を世界の精度で決定すること」を盛り込んだ約2年間にわたる新たな観測計画を提案しました。



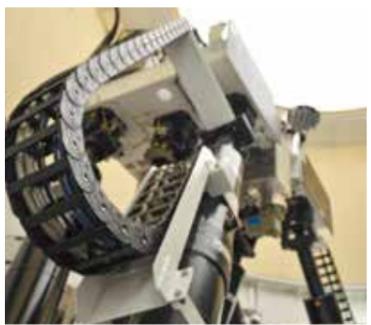
それらの活動が実を結んだのか、その年の6月には、「リーダーシップ経費」という名目で、追加予算が組まれ、2020年度の予算、そしてそれに続き、2021年度にも継続運用可能な予算が措置され、VERA計画は守られることになったのです。



▲VERAのエンジンともいうべき、動力をつかさどる機械室にはコンピュータがずらり。



▲アンテナ内の部屋での1枚。手前と奥に2本ずつ見えるラッパのような筒状の装置で星からの電波をキャッチするんだそう。これがVERAの心臓部とも言える場所。



▲右と同じ部屋の装置の一部。VERAの観測の方向に合わせて、この部屋ごとぐるぐる稼働するので、コンピュータも含めて装置は全て固定されているんだって。



▲微弱な電波をキャッチするためには、とにかく静かにしないとイケないんだって。この超低温を発生させる装置で冷やすことで静かに電波をキャッチすることができるとのこと。写真がボケているのは、超低温のこの部屋のせい？



▲下から見上げるとまるで宇宙ステーションに来たみたいな景色が。「ドッキング開始せよ」なんて言いたくなっちゃう。